



国土交通省

(出典・引用) 国土交通省 https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk4_000188.html

あり方取りまとめ案、省エネ基準適合義務化は2025年度

国土交通省、経済産業省、環境省による3省合同の「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」は第5回を開催し、とりまとめに向け「脱炭素に向けた住宅・建築物における省エネ対策等のあり方・進め方(案)」を提示し、新たに対策の進め方のスケジュールが公開された。

スケジュールでは、**2025年度の適合義務化を経て、遅くとも2030年度には、誘導基準(2023年度にZEH水準に引き上げ予定)に基準を引き上げる**としている。

適合義務化に向け、来年度から補助制度やフラット35において適合を要件化する。

また、ZEHを上回る外皮基準は、住宅性能表示制度における「さらなる上位等級」の設定や、地方自治体の取り組みの促進を検討するとの表現に留まった。

年度	住宅
2022	・補助制度における省エネ基準適合要件化 ・ZEH等や省エネ改修に対する支援の継続・充実 ・中小事業者の断熱施工の実地訓練を含めた技術力向上の取組
2023	・フラット35における省エネ基準適合要件化 ・建築物省エネ法に基づく誘導基準等の引き上げ BEI=0.8(再エネを除く)及び強化外皮基準 ・分譲マンションに係る住宅トップランナー基準の設定(目標2025年度) BEI=0.9程度及び省エネ基準の外皮基準
2024	・新築住宅の販売・賃貸時における省エネ性能表示の施行 ・既存住宅の省エネ性能表示の試行
2025	・住宅の省エネ基準への適合義務化 ・住宅トップランナー基準の見直し(目標2027年度) BEI=0.8程度及び強化外皮基準(注文住宅TR以外) BEI=0.75及び強化外皮基準(注文住宅TR)
2026	
	・省エネ基準について、遅くとも2030年度、誘導基準への適合率が8割を超えた時点で誘導基準のレベルに引き上げ ・あわせて誘導基準等の引き上げ

出典：検討会資料「対策のスケジュールと省エネ算出について」

日本経済新聞

新築戸建て6割に太陽光、2030年設置

河野太郎規制改革相のもとに設けた再生エネに関するタスクフォースで7月27日、2030年度に温暖化ガスの排出量を13年度比で46%削減する目標の達成に向けて再生エネの普及拡大を促すと経産省、国交省、環境省の3省が表明した。



経産省によると、太陽光パネル設置を2030年までに大手住宅メーカー注文戸建てで9割、中小メーカーや建売りは半分程度の設置をめざす。これにより新築の設置が6割程度の水準になる。実現した場合、2030年で90億kW時程度の発電量になるという機械的な試算も示した。高い断熱性能に太陽光発電などを組み合わせるZEHの普及支援や、再生エネの買い取り制度、事業者や消費者への情報提供などで太陽光の設置を後押しする考え。

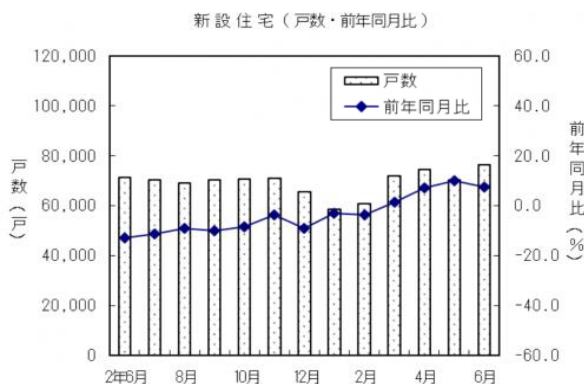
(出典・引用) 日本経済新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA278210X20C21A7000000/>

国土交通省

2021年6月新設住宅着工 -持家8カ月連続増加-

国交省は、2021年6月新設住宅着工戸数を発表。分譲住宅は減少したが、持家と貸家が増加し、全体で**前年同月比7.3%増の7万6,312戸と4カ月連続増加**となった。



■持家	2万6,151戸	(前年度比 10.6%増)
■貸家	2万9,802戸	(" 11.8%増)
■分譲住宅	1万9,877戸	(" 1.5%減)

持家は8カ月連続、貸家も4カ月連続で増加した。持家・貸家ともに過去10年間で最も低い水準だった昨年同月からの反動増となった。分譲住宅は、マンションが大きく落ち込んだことにより、4カ月ぶりの減少となった。

(出典・引用) 国土交通省

https://www.mlit.go.jp/report/press/joho04_hh_001000.html



(株)NEXERが運営する日本トレンドリサーチは(株)ハウジング建都と共同で、注文住宅を建てたという全国の男女対象に、「注文住宅」についてアンケートを行いました。

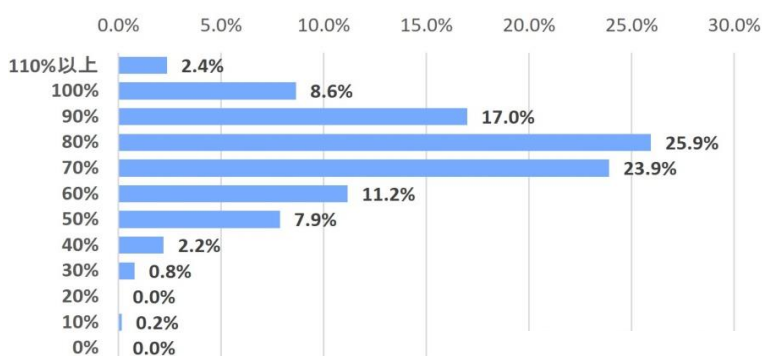
調査手法：インターネットでのアンケート

調査対象：事前調査で「自身の希望・理想の注文住宅を建て、住んだことがある」と回答した男女636名

調査期間：2021年7月7日～7月12日

■ 理想に対する完成度、80%が最多

建てる前に描いていた“理想の家”に対して
どれくらいの完成度の家が建てられましたか？
(n=636)



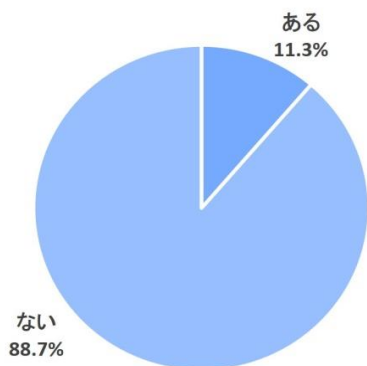
どのような点または理想以下になったのか（一部抜粋）

- 2階が思ったより暑かった（50代・女性）
- 屋根。もう少しお金をかけて丈夫にしておく方がよかったかなと。わりと消耗するところ（60代・女性）
- 家事導線が考えていたほど納得のいくものではなかった（60代・男性）
- 夏に建てたので、冬の季節をイメージしていなかった（40代・女性）
- キッチンの広さ、使い勝手が思ったより悪かった（60代・男性）
- キッチンの収納が足りなかった（40代・女性）

最も多かったのは「完成度80%」で、25.9%の方が回答しました。少数ながら「110%以上」と理想を超える家ができたという方もいました。全体の1割ほどの方が、理想どおり、またはそれを超える家ができたようです。また、およそ半数の方は、比較的理想に近い家が建てられたようです。一方で、1割ほどの人が、理想の半分、またはそれにも満たない完成度の家を建てている、という結果となりました。

■ およそ1割が注文住宅を建てたことを後悔

注文住宅を建てたことに、後悔はありますか？
(n=636)



どのような点を後悔しているのか（一部抜粋）

- 維持費がけっこうかかる（60代・女性）
- もっと安くできたはずなのに、知らない間に高くなってしまった。業者の口車に乗ってしまった（60代・男性）
- もっと収納を作ればよかった。子どもが育つにつれ、部屋が手狭になってきた。モデルルームなどを見て、情報を集めればよかった（30代・女性）
- 定年退職まで借金を抱えてまでも建てるほどの意味があったのかと思う（60代・男性）
- 若い時には気にならなかったが、歳をとって保守しにくいところがあった（60代・男性）
- 自分達の生活をもっと深く想像してから建てるべきであった（40代・男性）

11.3%と、およそ1割の方が後悔が「ある」と回答しました。裏を返せば、前問で“完成度が100%以上でなかった”という方も含め、多くの方が後悔は「ない」ようです。

テレワークの定着化によるニューノーマルへの移行で住まいに求められる要素が変化してきていますが、上記にあるようにキッチンの使い勝手や家事動線など普遍的な希求は変わらないようです。SNSの普及により顧客満足度が大きく影響力を持つ時代、竣工後のユーザーの声を拾い上げていくことも改めて考えてみてはいかがでしょうか。